

入居者ファースト！職員ファースト！

～2年目の挑戦！ノーリフティングケアでアンチエイジング～



介護付き有料老人ホーム 生の松原ハッピーガーデン

生の松原ハッピーガーデンで なぜノーリフティングケアが**必要なのか**！

生の松原ハッピーガーデンは、

『介護付き有料老人ホーム』

一般（自立）居室
38部屋

シニアマンションとして
自由に生活していただいているが、
最近入居者の高齢化が進み、
生活にお手伝いが必要な方が増えている



介護居室
（特定施設入居者生活介護）
32部屋

職員配置⇒3：1（看護師8名、介護士14名）
看護師は24時間体制で配置している
平均介護度⇒2.6
平均年齢⇒入居者87.3歳、職員52歳

職員配置は、特定施設として稼働させている介護居室入居者に対して
3：1と手厚く配置はしているが、**入居者の高齢化、介護量の増加に加えて、
職員の平均年齢も高くなっている。**
さらに一般居室入居者のサポートが増え、人員不足が顕著になっている。
限られた人員で、身体的・精神的負担を軽減し、継続的に働いていける
環境づくりのために「ノーリフティングケア」の導入を決めた。

推進委員の取り組み

5～6月 腰痛分類表の作成

7月 リスクマネジメント動画の作成、視聴
ケアチェック

8月 ラウンドの実施

9月～ 福祉用具の使用法のチェック

福祉用具購入にあたっての確認、チェック

11月 ノーリフティングフォーラム

定期的なラウンドマニュアルの作成
テキスト更新

12月 体調分類表の作成



腰痛

腰痛のチェック行い、分類表をもとに対応した。



腰痛チェック表の作成
（リスクボード）

- ① 様子観察
- ② 自己対応
- ③ 受診を勧める
- ④ 当日中に受診

腰痛分類表

腰痛に対しての対応を4段階に分類し対応

腰痛の度合いによって勤務内容の変更を行った

リスクマネジメントの勉強会



勉強会の実施と動画の視聴を促し理解度のチェックを行った

技術教育

スライディングボードの使用法の指導



スライディングボード・シートの管理

ストレッチャー浴の使用法についての説明、周知



施設内ラウンドの実施

ラウンドを行うことで問題点が抽出され、改善を行い新たな課題に取り組んだ。



「**乗時の抱え上げ**」が問題点に上がった。

①環境調整→跳ね上げ式の車椅子の購入、ストレッチャー浴を導入した。



②スタッフへのスライディングボード・シートの体験をおこなった。



施設内ラウンドの実施②

スタッフへの乗時のスライディングボード・シートの活用方法の指導を行い使用率がアップした。

③「**新たな課題**」→対象者が数名いる。

対象者に対してスライディングボード・シートの数が不足しており、待ち時間が発生しスムーズに移動が出来なくなっていた。

スライディングボードを増やす必要がある。

④スライディングボード・シートの追加購入。

ストレッチャー浴の導入

従来の入浴方法



問題点

- ①入居者を抱えないといけない
- ②移動の回数が多い
- ③シャワー浴しかできない
- ④スタッフの負担が大きい

シャワーチェアー**使用適応外の入浴**を強いられた。

ストレッチャー浴の導入

ストレッチャー浴



改善点

- ①平行移動が行えるため抱え上げがなくなりスタッフの負担軽減につながった。
- ②スタッフ2～3名で安全に移乗が可能になった。
- ③お湯につかれるようになった。
- ④寝たきりの方も入浴が可能になった。
- ⑤着替えも台の上で可能、入居者の負担軽減につながった。

まとめ

○慣れはないもののノーリフティングケアの現場の浸透度up、スタッフ全体で少し浸透し**ボードの使用率**が上がった。

○力任せの介助を見かけると、「ボード使ったほうがいいんじゃない?」「ちょっとボード持ってくる」とスタッフが**自ら考え動き出した**。

○介助時の**ベッドの高さ**は自然と適切な位置で行っている。
まだ使用方法が自己流だったり統一した体に負担が少ない方法があるはずなので模索していきたいと思う。



○入浴用ストレッチャー1台、ストレッチャー1台では待機者が出来1人に対して時間が掛かる。

○スライディングボード・シート・グローブの数が少ない

今後の課題

○ストレッチャー浴と移動用のストレッチャーがもう1台ずつあると**業務（生産性）効率**が上がるので増やしたい。

○全体のノーリフティングケアの浸透度は確実に前年度より向上しているが、より**身体の使用方**や**介護用品の適切な使用法**のこまやかな部分の指導が必要。



ご清聴ありがとうございました